

環境経営レポート

活動期間：2023年4月1日～2024年3月31日



 株式会社 **ライト** RIGHT co.,ltd.



エコアクション21

認証番号 0003721

目次

1. ごあいさつ	1 頁
2. 環境方針	2 頁
3. 事業活動の概要	3 頁
4. E A 2 1 推進体制と役割	4 頁
5. 2 0 2 3 年度環境経営目標とその実績	5 頁
6. 主要な環境活動の取り組み	6 ～ 9 頁
6 - 1. 電気量の削減と評価	6 頁
6 - 2. ガソリンの削減(燃費率向上)と評価	7 頁
6 - 3. 排水量の削減と評価	8 頁
6 - 4. 廃棄物の削減と評価	9 頁
7. 専門分野での取り組み	1 0 ～ 1 2 頁
7 - 1. 環境配慮品の拡販活動と評価	1 0 頁
7 - 2. 取り扱い商品紹介	1 1 ～ 1 2 頁
8. 環境教育・訓練実地状況	1 3 頁
9. 全社環境経営目標 中期計画	1 4 頁
1 1. 環境関連法規制の遵守状況	1 4 頁
1 2. 代表者による全体評価と見直し	1 5 頁

ごあいさつ

快適FAを創造する

FA（ファクトリーオートメーション）の専門商社として1963年に誕生し、皆様のご支援により成長、発展することができました。時代は21世紀に入り技術の進歩がますます早くなってきております。

株式会社ライトは創造と進化を社是に更なる企業発展を目指していきます。

安定した生産を実現するための生産ラインはもちろんの事、快適と安心をもたらすビル、家庭の防犯システム構築、安全、信頼が要求される医療機器など、これらを実現する上でオートメーション製品は重要な役割を担っています。

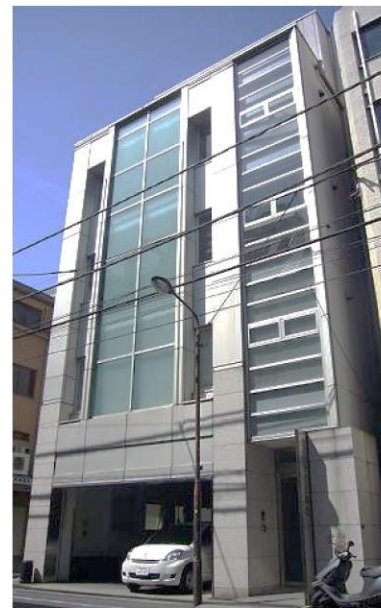
一方、ご高承の通り世の中は環境保全に対する企業の社会的責任に関して、ますます要求が高まってきております。「快適FAを創造する」株式会社ライトは省力化、省エネルギー化、生活環境にやさしい製品を提案、提供できる人材を育成し関東圏に張り巡らせた9拠点のネットワークをより強化しサービスの向上を図る所存です。

2008年9月から環境活動として、エコアクション21取得への取組みを始め2009年6月に認証登録が完了しました。環境活動が本格的にスタートし二酸化炭素排出量・排水量・廃棄物の削減と共に、これまでの成果を踏まえて事務所内での活動から本来業務である販売活動を通して顧客先の環境負荷低減に役立つ情報提供に注力し、更なる環境配慮品の拡販を目指し低炭素社会の実現に努めてまいります。

社 是 創造と進化

行動指針

1. ライトは努力します。
2. ライトは挑戦します。
3. ライトは改善します。
4. ライトは成長します。
5. ライトは満足度を高めます。



環境経営方針

環境理念

株式会社ライトは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであると認識し「あらゆる事業活動において環境に配慮し、地球環境の保全に寄与する」ことを基本理念として活動します。

基本方針

株式会社ライトは、事業活動・商品・サービスに関わる環境影響を常に認識し、環境理念に基づき従業員全員でPDCAサイクルを回し環境負荷の軽減に継続的に取り組みます。

行動指針

1. 事業活動の全領域で省資源、省エネルギー、資源循環に配慮することを推進します。
2. 環境関係法令の遵守と、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
3. 環境教育、社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針・実施体制を周知徹底すると共に環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上をはかります。
4. 運営にあたっては、エネルギーや資源の有効利用および廃棄物の削減と責任ある行動をとり、お客様に環境適合品・環境配慮品の提供に努めます。
5. 環境教育を推進し、全従業員が意識向上を図ると共に広く社会に目を向け、自らの責任を持って環境保全活動を遂行できるように啓発を行います。
6. お客様の環境負荷低減を図るため環境にやさしい情報やサービスを積極的に提供していきます。
7. 情報技術の活用による環境負荷低減や環境効率の向上など、お客様の環境問題に配慮した取引を積極的に推進します。
8. 以上の活動をレポートとしてまとめ、事務所に備え付け一般の閲覧を可能にします。

制定 2008 年 10 月 30 日

改訂 2022 年 6 月 1 日

株式会社 ライト

代表取締役 加藤 一也

事業活動の概要

■ 会社名及び代表者名

事業所名 株式会社ライト (<https://fa-right.co.jp/>)
 代表者名 代表取締役 加藤 一也

■ 所在地

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-14
 千葉営業所 〒274-0825 千葉県船橋市前原西5-6-22
 さいたま営業所 〒330-0803 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町2-363-2
 多摩営業所 〒192-0902 東京都八王子市上野町31-6
 狭山営業所 〒350-1331 埼玉県狭山市新狭山2-5-20
 相模原営業所 〒228-0803 神奈川県相模原市南区東林間5-17-1
 つくば出張所 〒302-0115 茨城県守谷市中央4-13-17 NCビル 501
 横浜営業所 〒221-0021 神奈川県横浜市神奈川区子安通1-5-6ライト子安ビル7F *1
 成田営業所 〒286-0033 千葉県富里市日吉台 1-6-1 アラビル3F

*1 横浜営業所は平成30年4月20日より3Fフロアを倉庫/会議室として使用しています。

■ 対象活動範囲

ファクトリーオートメーション機器、コントロールパーツの販売

■ 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 総務課 課長 鈴木 康二
 連絡先 電話 03-5259-1711 (代表) FAX 03-5259-1758

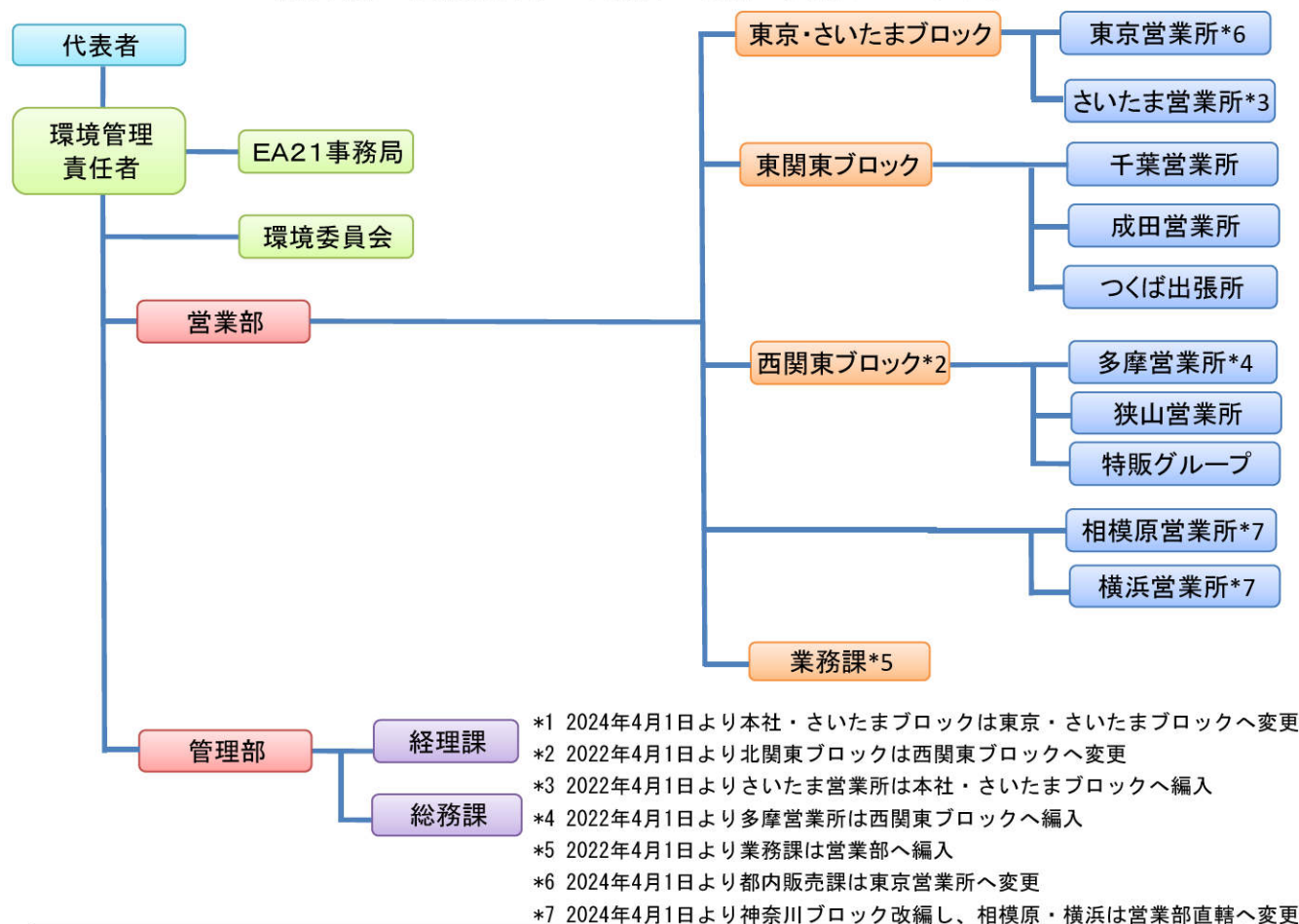
■ 事業の規模

資本金 6,630万円
 設立 1963年11月29日

活動規模	2021年度	2022年度	2023年度
売上高 (百万円)	4,018	4,387	4,347
従業員 (人)	70	70	68
事務所床面積 (㎡)	1,768	1,768	1,768

EA21推進体制と役割

株式会社ライトでは、各部門長が推進責任者を兼任し、環境委員として年1～2回のマネージメントレビューにて環境目標の達成状況などを報告・検討・決議しています。



	役割
代表者	- 環境経営システムの推進に必要なインフラを整備し、資金・人・技術・時間を用意する - 環境システムの見直しを実施し、当システムが有効であるために必要な改善に努める - 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 - 環境管理責任者を任命し、実施体制・環境経営方針を周知する。
環境管理責任者	- 環境経営目標、計画や達成状況の把握、組織の見直しのとりまとめをする - 環境経営システム監査の計画・実施・是正処置の指示及び承認をする - 代表者への活動状況報告に必要な情報収集の指示を行う - 代表者の見直しのための不適合を含む改善の実績等の代表者への報告を行う
EA21事務局	- 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施の集計を行う - 環境活動の実績集計を行う - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	- 推進責任者は、マネージメントレビューに参加をし環境経営システムの運用状況の報告を受け問題が発生している場合は改善策の検討を行う - 環境経営システムに問題が発生した場合適時に社長指示により開催される
推進責任者	- 自部門の環境経営計画の作成および実施・達成状況の報告をする - 自部門の従業員に対する環境教育訓練の実施をする - 自部門の特定された緊急事態への対応の為の手順書を作成し、テスト・訓練を実施し記録の作成をする - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施をする

2023年度 環境経営目標とその実績

2023年度の環境目標と実績および達成状況は以下のとおりです。

半期ごとにマネジメントレビューを行い未達成項目と問題点の改善を行っております。

環境目標		2022	2023			結果 前年度比	達成 状況
		実績	目標値		実績		
二酸化炭素排出量	電力使用量 KWh/年	109,359	109,359	2022年度比	107,452	98.3%	○
	CO2排出量 kg-CO2/年 (購入電力排出係数 0.455及び 0.514)	54,548	54,548	100.0%	53,449	98.0%	○
	電力使用量 KWh/人	1,599	1,599	2022年度比100%	1,580	98.8%	○
	ガソリン使用量 L/年	41,285	41,285	2022年度比	39,996	96.9%	○
	CO2排出量 kg-CO2/年	95,850	95,850	100.0%	92,856		
	燃費率 km/ℓ	15.1	15.1	2022年度比100%	14.5	96.3%	×
排水量	水道使用量 m ³ /年	358.0	358.0	2022年度比 100.0%	374.0	104.5%	×
	水道使用量 m ³ /人	5.23	5.23	2022年度比 100.0%	5.50	105.2%	×
廃棄物	廃棄物排出量 kg/年	1,708	1,708	2022年度比 100%	1,644	96.3%	○
	廃棄物排出量 kg/人	25.0	25.0	2022年度比 100%	24.2	96.8%	○
製品	環境配慮品の拡販 万円	267,083	263,151	2022年度比 98.5%	267,366	100.1%	○

* 弊社では、化学物質の使用及び取り扱いはありません。

欄が2023年度の目標値と結果です。

環境経営目標 達成状況について

当社では2018年度の目標より、人員増・事務所拡大・事業拡大(営業活動量増)等の要因での目標未達成を避ける為、一人当たりの使用量(電気/水/廃棄物)や燃費効率(ガソリン)での目標設定に変更しています。

達成状況としては、節水以外はすべての項目で目標達成と言える結果でした。(節水のみ削減未達)

燃費率は96%もガソリン使用量は削減できており、電力削減と合わせて二酸化炭素排出量削減に成功しております。事業と密接に関係する環境配慮品の拡販は前年比100.1%の売上で好調だった前年実績を維持。昨年も記録的な猛暑の年でしたが全社員のエコ意識の高さもあり、2年連続で節電・省エネの目標を達成できました。節水は未達も必要最小限の使用での活動及び啓蒙は問題なく出来ております。

主要な環境活動の取組み

電力

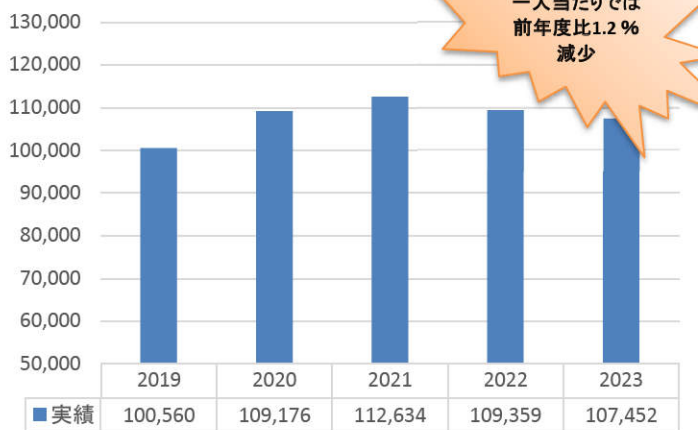
単位: KWh/人

前年度比	目標(100%)	結果(98.8%)
	1,599	1,580 ○

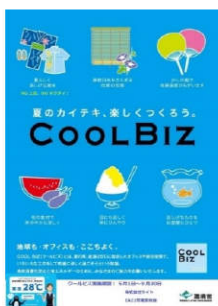
電力量の削減活動

- 冷暖房の設定温度遵守
(冷房 28℃/暖房 20℃を目安とする)
- 外出時または未使用のパソコンの電源を切る
- 昼休みなど離席時にパソコンモニターの電源を切る
- 就業規定時間外の不要箇所の消灯を徹底する
- 働き方改革推進: DX・業務効率化で時短勤務する

電力総使用量の過去5ヶ年推移



- 長時間の離席時及び昼休み等の消灯を徹底する
- 荷扱いなし倉庫などの無用の照明の電源を切る



本社の他、横浜営業所など順次、LED照明への切替えを推進中

※2023年度よりクールビズ・ウォームビズを通年実施しました

評価

2023年度より、クールビズとウォームビズを通年実施とし、年間を通して気温に適した服装による節電活動を推奨しています。

WEB会議システム推進、働き方改革による業務効率化と毎週水曜日のNO残業デーなどの時短勤務を前年に続き推進しました。

記録的な猛暑がありましたが、OA機器の更新やDX推進(全社PC及び複合機を最新機種へ入替)、節電活動の徹底等で2年連続で削減・節電が出来ました。



弊社初の太陽光発電システム(ダイワハウス)を導入した多摩営業所はECOな拠点です。

今後の取り組み

システム改善や新業務ツール等を使いDX業務効率化を推進し生産性上げ、リフレッシュデー徹底など時短勤務による節電活動を継続して参ります。また空調機やLED照明をはじめとした省エネ設備の随時検討・導入も推進して参ります。

ガソリン

燃費率 単位:km/ℓ

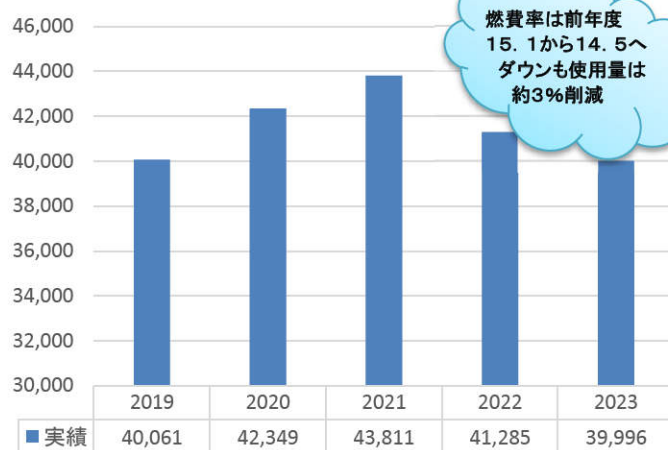
前年度比	目標(100%)	結果(96.3%)	
	15.1	14.5	×



トヨタ/カローラ フィールダー

営業車として弊社初のハイブリットカーを継続採用中(狭山営業所/特販G)
 全社で一番長距離を走る車両ですが高燃費率でCO2削減に貢献しております。

ガソリン使用量の過去5ヶ年推移



ガソリン使用量の削減活動

- エコドライブ10か条を守りガソリンの節約を行う
- 車両管理表にて毎週、給油量・走行距離・オイル交換・空気圧点検等の管理を行う
- 車両リース満了時には燃費効率の良い軽自動車への入替えを積極的に推進しております
- 訪問ローテーションを守り効率よくお客様へ訪問をしてガソリンの節約を行う

エコドライブ10か条

1. 不要なアイドリングはやめましょう
2. タイヤの空気圧をチェックしましょう
3. 不要な荷物を降ろしましょう
4. 暖機運転は適切に
5. 急発進、急加速はやめましょう
6. 車間距離は余裕を持って
7. エンジンブレーキを積極的に使いましょう
8. 駐車場所は良く考えて
9. 夏のカーエアコンの設定は1度高めに
10. 計画的にドライブをしましょう

評価

2023年度も前年に続き燃費率向上を目標にし、エコドライブの徹底と効率の良い訪問を心掛けて取り組んで参りました。燃費率は15.1→14.5km/ℓへ少しダウンしましたが、ガソリン使用量は前年比96.9%と2年連続で削減でき、二酸化炭素排出量削減も出来ました。記録的な猛暑の中での削減にて評価できます。

今後の取り組み

今後もエコドライブ徹底と効率の良いルート営業見直しを継続し、燃費率の良い営業車への入替えを進めて燃費効率改善で二酸化炭素排出量削減に努めて参ります。車両の適正保有数について見直し検討中です。また安全運転管理者の設置/アルコールチェック等の安全管理も法令遵守し実施して参ります。

水使用量

単位:ℓ/人

前年度比	目標(100%)	結果(105.2%)	
	5.23	5.50	×

水使用量の削減活動

- 水道の蛇口の閉め忘れに注意し使用量を削減する
- 毎週の社内清掃時に水漏れ点検を行い無駄をなくす
- 屋外散水栓のハンドルは使用時のみ取付け使用する

評価

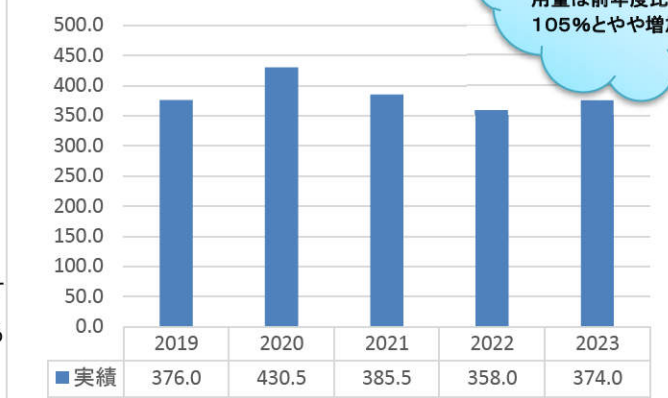
2023年度も前年に続き排水量の削減活動は一人当たりの使用量を削減目標に設定して取り組みました。2020年度はコロナ禍対策で手洗い/消毒が増え、多摩営業所での夏季休暇中の異常水量計測(近隣の不正使用疑い)もあり、大幅増となっていました。その後、不正使用防止策等の実施と節水努力により2年連続で1割以上の削減が来ておりましたが2023年度は少し増加してしまいました。それでも一昨年以前よりは削減できておりますので節水活動は良く出来ていると思います。

今後の取り組み

今後も感染症対策等での手洗い/消毒の徹底は続きますが、全社員が行う定期清掃の際に水漏れ点検等を行うことや、節水啓蒙などの基本的な取組みを継続していきます。またエコな設備更新も随時検討して参ります。

※節水活動と啓蒙は徹底出来ており、必要最小限の水使用量を削減維持出来るように努めて参ります。

水使用量の過去5ヶ年の推移



廃棄物

単位:Kg/人

前年度比	目標(100%)	結果(96.8%)	
	25.0	24.2	○

廃棄物の削減活動

- 一般廃棄物の分別を徹底し、出来る限り段ボール箱や緩衝材などは、再利用をして廃棄物を減らす。
- カタログ類は必要数量のみ手配して配布し、廃棄とならない様にする。電子カタログも利用。
- 無駄なデータのプリントをせずに電子化運用を推進。
- コピー用紙の裏紙使用を徹底する。
- お客様への連絡等をメールの有効活用にてペーパーレス(電子化)にする。

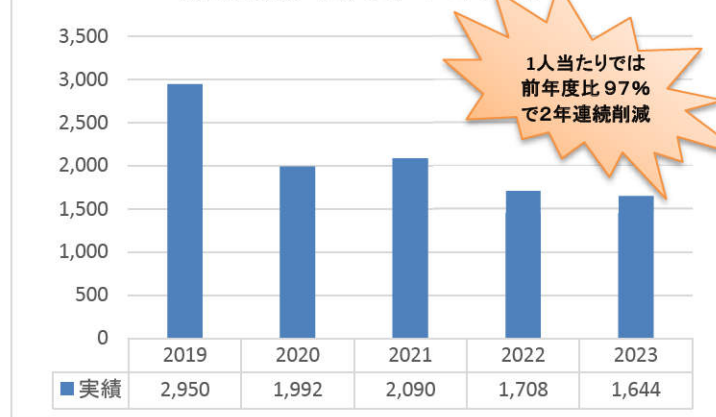
評価

2023年度も廃棄物の削減目標を達成することが出来ました。前年度比も2年連続で廃棄量削減が出来ました。各種社内書類等のペーパーレス/電子化の推進と、紙資源や梱包材などの再利用が徹底継続されております。人員増減や人事異動等での一時的な整理廃棄による増加はありますが、分別廃棄含めエコ活動を推進して参ります。

今後の取り組み

所内5S活動と称して整理整頓をはじめとする業務効率UPに繋がる活動を今後も積極的に行っていきます。特に文書・申請書類等の電子化推進及び電子保管を進め、ペーパーレス化と業務効率化を推進しております。WEB会議や電子カタログを利用した、ペーパーレス効率営業も展開中。また2020年より社内文書類を全社共有のファイルサーバーを導入し、電子管理と情報共有を積極展開しており、**2023年度には電帳法にも対応。**そして**2024年度には社内システムのFAX機能を完全にメール電子化する事を計画、DX推進をさらに加速させます。**

廃棄物過去5ヶ年の推移



* リサイクル資材で分別BOXを作り分別の徹底を行っております



* 各部署にてコピー用紙の裏書入れを作成し裏紙利用の徹底を行っております

F A の専門商社として専門分野での取組み

環境配慮品の拡販

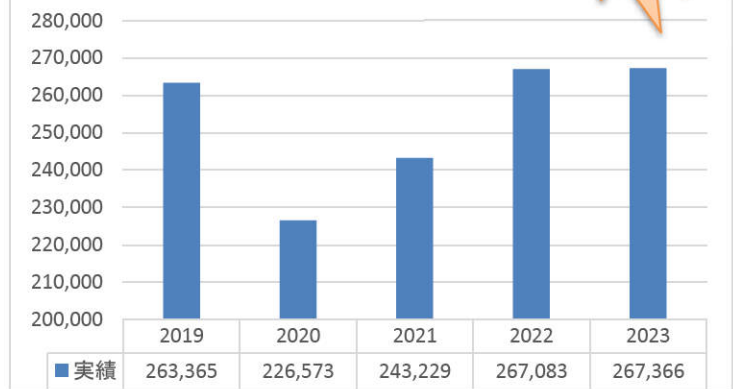
単位: 万円

前年度比	目標 (98.5%)	結果 (100.1%)
	263,151	267,366 ○

環境配慮品の拡販活動

- パナソニック・三菱電機・I D E C の環境配慮型製品販売額にて算出する
- 環境配慮品の社内勉強会を行い、お客様への確な提案ができるようにする
- カタログPR配布部数、デモ機によるPRの実施回数を管理し拡販につなげる
- メーカー同行による詳細な製品紹介

環境配慮品販売額過去5ヶ年の推移



前年度比
100.1%にて
売上維持

- 感染症対策を継続し、WEB会議システムを使った商談・PR等実施

評価

2023年度は環境配慮品販売額の目標を達成し、前年度比も好調だった前年の売上実績を維持できました。コロナ禍と半導体部品欠品問題等の影響から大きく売上ダウンした2020年度から挽回・回復し、モバイル機器の普及とテレワーク環境構築が進んだ事で、時間と場所を選ばず効率的(ECO)に営業活動が出来るようになりました。

今後の取り組み

部品欠品による納期問題の対策在庫として先行購入特需がありましたが、納期問題の収束と共に一部過剰在庫となり、受注状況が鈍化しております。メーカーと協力し、新規客先や新市場等へ環境配慮品の拡販に注力して参ります。

弊社では、省エネ・省力化対応製品としてLED照明やインバータ・ACサーボモータそしてロボットシステムの提案にてお客様のECO活動に貢献をしております。

IDEC LED照明ユニット
LF1A形

LEDモジュールと高効率な放熱技術により、薄形化を実現!
省・省・省

※省エネルギー省資源省コストの3つの省を実現!



LEDモジュールの成長とアプリケーション

項目	従来品	LEDモジュール (LF1A形)	LEDモジュール (LF1A形)
外形寸法	270mm x 100mm x 30mm	270mm x 100mm x 15mm	270mm x 100mm x 15mm
重量	約1.5kg	約0.5kg	約0.5kg
寿命	約10,000時間	約50,000時間	約50,000時間
消費電力	約100W	約50W	約50W
放熱	自然対流	強制対流	強制対流
アプリケーション	工場照明	工場照明	工場照明

※本製品はオプションで、LEDモジュールの寿命を延長させることができます。

IDEC株式会社

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

FACTORY AUTOMATION

三菱電機 産業用ロボット
MELFA FRシリーズ

eFactory



MELFA FR

盤内蛍光灯の代替にLED照明の提案 (IDEC株式会社提供)

産業用ロボット FRシリーズ (三菱電機株式会社提供)

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

Automating the World

FACTORY AUTOMATION

三菱電子式マルチ指示計器
ME110Gシリーズ



MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

FACTORY AUTOMATION

三菱電機 汎用インバータ
A800シリーズ

高精度・高性能・安価な高品質。
＜最良価格・最短納期・最良サービス＞

A800



※ 最新の機能・性能の向上
※ 高精度・高性能
※ 最短納期・最良サービス
※ 最良価格・最短納期・最良サービス

インバータFR-A800シリーズ (三菱電機株式会社提供)

← JECA FAIR 2024 第63回製品コンクールにて
『国土交通大臣賞』を受賞

※iPhoneアプリで簡単設定・業務効率アップ、使用電力量をCO2排出量で表示し、カーボンニュートラルの実現に向けたCO2排出量の把握に貢献。

スマート設定電子式マルチ指示計器 (三菱電機株式会社提供)

* 取扱い主力メーカーであります三菱電機株式会社殿、IDEC株式会社殿をはじめ今回掲載させて頂いてますような省エネ関連の商品を多数取り扱いをしております。省エネに関しますご検討の際には是非弊社へお問合わせのほど宜しくお願い致します。

* 弊社では、お客様の省力化のお手伝いとしてシステム提案等もさせて頂いております。これから、社内設備のロボットによる自動化をご検討をされますお客様には、三菱電機株式会社、株式会社デンソーウェーブ、ファナック株式会社等弊社取扱い製品の中から、最もお客様にマッチした製品のご紹介とシステム構築のお手伝いをさせて頂きますのでご用命をお待ちしております。

三菱電機株式会社 製 省エネ支援機器のご紹介



省エネ支援アプリケーション

AIを搭載し、データの分析・診断から効果検証に至るまでの省エネ活動をトータルサポートするソフトウェア

- 管理：CO₂排出量・使用エネルギーの可視化
- 分析：生産設備のエネルギーロスを自動抽出
- 診断：エネルギーロスの要因診断
- 検証：省エネ対策の効果検証

- ・ 省エネ支援アプリケーションEcoAdviser（三菱電機株式会社提供）



エネルギー計測ユニット

電力監視・データ収集

- エネルギーの見える化を実現
- 用途に応じたデータ収集方法と通信方式を選択可能
- きめ細かなエネルギー計測でCO₂排出量の把握にも活用可能
- 制御機能を持つユニットで設備の省エネを実現

- ・ エネルギー計測ユニット（三菱電機株式会社提供）



サステナブルモータ

省エネ・省資源

- レアアースを使わない次世代モータでカーボンニュートラルへ
- 先進の高効率化技術で持続可能な社会の実現
IE5クラスのウルトラプレミアム効率
- IE5クラスの効率で消費電力・CO₂排出量削減効果
- 従来機種より小型・軽量化を実現

- ・ サステナブルモータ（三菱電機株式会社提供）

環境教育・訓練実地状況

防災避難訓練

■ 環境教育・訓練の一環として今年度も、全社にて防災避難訓練を実施しました。

弊社では東日本大震災後、防災対策として各部署にヘルメット、非常持ち出し袋、寝袋、飲料水・非常食等が配布されております。

今後の地震等の災害に備え、地震時の行動について各部署にて手順書等を基に避難訓練の実施及び避難経路の確認等を行い、社員全員の防災に対する教育を行っております。

2023年の避難訓練も前年と同じく、社会(東京)が防災について意識が高まる9月に実施。(2016年までは1月実施)

今回も昨年同様に配布されている防災対策備蓄品の過不足や消費期限などの確認と不足分補充、そしてBCP対策を考慮した拠点別・事業所防災計画を更新し、各自の防災時役割分担、避難場所・手順、震災時/時差退社計画、給水所、緊急連絡(伝言板)などを確認し情報共有(人事異動などに対応しメンテナンス実施)。

今後も従業員全員が緊急の際にも慌てず行動できるように防災非難訓練を継続して行きます。



避難袋・備蓄品リストの確認



防災備蓄品・保存食など消費期限確認



地震 その時 10のポイント(社内掲示)



地震発生時の行動確認

全社環境目標 中期計画

人員計画69名にて算出(3ヶ年)

項目		2023年実績	2024年目標	2025年目標	2026年目標
二酸化炭素排出量	電力使用量 KWh/人	1,580	1,580	1,564	1,548
	電力使用量 KWh/年	107,452	基準年度比 100.0%	基準年度比 99%	基準年度比 98%
	CO2排出量 kg-CO2/人 (購入電力排出係数0.455及び0.514)	786.0	786.0	778.1	770.3
	CO2排出量 kg-CO2/年 (購入電力排出係数0.455及び0.514)	53,449	53,449	52,915	52,380
	自動車燃料 燃費率 km/ℓ	14.5	14.54 基準年度比 100.0%	14.54 基準年度比 100.0%	14.83 基準年度比 102.0%
	ガソリン使用量 L/年	39,996	39,996 基準年度比 100.0%	39,996 基準年度比 100.0%	39,196 基準年度比 98.0%
	CO2排出量 kg-CO2/年	92,857	92,857	92,857	91,000
排水量	水道使用量 m ³ /人	5.50	5.50 基準年度比 100.0%	5.45 基準年度比 99.0%	5.39 基準年度比 98.0%
廃棄物	廃棄物排出量 kg/人	24.2	24.2 基準年度比 100%	24.0 基準年度比 99%	23.7 基準年度比 98%
製品	環境配慮品の拡販 万円	267,366	222,135 基準年度比 83%	270,000 基準年度比 101%	280,700 基準年度比 105%

※2018年度の目標より1人あたりの電力・水の使用量削減、廃棄物排出量削減を目標とし、自動車燃料は燃費向上を目標としております。

※事務用品のグリーン購入はEA21ガイドライン2017版にて必須項目でない為、計測してませんが取組みは継続しています。

※環境配慮品については、主要メーカー環境配慮品型製品の販売額を集計しています。(三菱電機/パナソニック/IDEC)

環境関連法規制の遵守状況

当社に適用される主な環境関連法規

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
フロン排出抑制法	遵守

* RoHS指令、WEEE指令は、顧客要求事項として管理をしております。

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果違反はありませんでした。

また、関係機関から特に指摘は無く、また訴訟もありません。

代表者による全体評価と見直し

- ・電力、ガソリン、水道水使用量の削減活動及び廃棄物処理量の削減は、全社員が其の活動の社会的な意義を十分理解し、目標を正確に把握して取り組んでおります。
- ・2023年度はコロナ禍も5類移行で終わり、通常営業に戻りましたが引き続き、手洗い/換気/時差出勤/WEB会議等は推進して参りました。エコ活動結果としては節水目標以外は概ね目標達成出来ました。燃費改善についても前年度比で燃費率96.3%、ガソリン使用量96.9%にて二酸化炭素排出量削減目標は達成してますので節水以外の省エネ/削減目標を前年に続き全て達成という好結果となり、記録的な猛暑や降雪など気候環境の厳しい中で良くエコ活動出来てます。
- 節水は目標未達も必要最小限の使用量で推移しており、昨年以前よりは削減出来てるので問題なし。
- ・ビジネスの根幹となる環境配慮製品の拡販は半導体部品欠品という問題が継続し、メーカーの価格値上げも多く、商社として厳しい状況が続きましたが、前年比100.1%の売上維持で目標は達成しました。
- ・継続実施中の社内DX業務効率改善では全社PCを更新スペックUPし、ノートPCによるテレワーク環境も構築できた事で時間と場所を選ばずに効率良く仕事が出来るようになりました。
- ・今後もSDGsや脱炭素等の社会的要求に積極的に応えていけるように努力して参ります所存です。

◆ 生産性(売上エネルギー効率) : 2023年度は売上維持・人員減にて、3年連続で生産性UPとなりました。

(総資源量(総売上量)／1人当り／1時間当たり)／(総エネルギー使用量／1人当り／1時間当たり)

	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2024年目標
総資源量(円)	21,821	23,917	26,113	26,636	27,968
総エネルギー使用量(MJ)	15.37	15.93	15.23	15.05	15.35
円/MJ *1	1,420	1,501	1,715	1,770	1,822

*1 使用した資源に対する1人当たりの売上量を表しています。

株式会社ライト
環境経営レポート
発行 2024年6月20日
株式会社ライト EA21事務局

東京都千代田区内神田1-12-14
TEL:03-5259-1711
FAX:03-5259-1758

URL: <https://fa-right.co.jp>